

古口博之先生 記念号によせて

古口博之先生が、この3月に退職されます。本学の発展に多大な功績を残された古口先生が、本年をもって退職されることは大変残念なことでありますが、ここに古口先生の本学における功績に退職記念号を刊行し、先生に衷心より感謝の意を持って捧げる次第でございます。

古口先生は1978年3月に獨協大学外国語学部英語科を卒業され、同年4月には獨協大学外国語英語専攻科にご進学、1979年3月に修了されました。1979年4月から教諭として神奈川県立鶴嶺高等学校にて教鞭をとられたのち、1983年8月にミシシッピ大学大学院英米文学研究科修士課程に入学され、その後1984年12月にミシシッピ大学大学院英米文学研究科MA、翌年12月にミシシッピ大学大学院英米文学研究科SEを修了され、1986年4月に獨協大学外国語学部非常勤講師に就任されました。そして、神田外国語大学外国語学部非常勤講師、千葉大学教養部非常勤講師を経て、1993年4月に本学の専任講師として着任されました。

本学においては、1997年4月に助教授、2004年4月に教授に昇格されております。また、1999年12月から2001年11月まで学生部長、2011年12月から2015年11月まで教務部長を歴任され、2015年4月から2017年3月の2年間と2020年4月から2021年3月までの1年間は副学長として大学運営にもご尽力されました。

このように古口先生は、本学において大学教育のみならず、大学行政においても多大なるご貢献をいただきました。とりわけ、学校法人岐阜経済大学と学校法人大垣女子短期大学の法人合併による学校法人大垣総合学園の発足、そして新型コロナウイルス感染症の感染蔓延期という難しい大学経営の分岐点において、重責を担われました。

さらに、学問研究においては、現代英米詩を専門分野としてエミリオ・ディキンソン、ウォレス・スティーヴンス、ジョリー・グラハムを研究課題とされ、『ジョリー・グラハム詩集全訳』等多数の著書、論文を発表されるなど、学術文化の発展に寄与されました。

その他、日本エミリオ・ディキンソン学会副会長、大垣市市民環境賞選考委員などを務められ、学術関係者の立場から学外でも活躍されています。

古口先生には今後とも後進へのご指導ご鞭撻を賜うようお願い申し上げますとともに、十分にご自愛いただき、ご長命であられますことを祈念申し上げ、退職記念号によせる言葉とさせていただきます。

岐阜協立大学学長
岐阜協立大学学会会長 原田理人